

巣は著明に縮小, CTでリンパ節と腹膜播種は消失しCRを得た. 11コース施行後TS-1/Paclitaxel, TS-1+CPT-11をそれぞれ4コース施行したが治療開始後1年8ヶ月で再発した. そのため在宅緩和ケアに移行し治療開始後2年4ヶ月で在宅看取りとなった.

22 循環癌細胞と臨床応用

伊藤 寛晃・井上 晴洋・山洞 典正
木村 聡*・合田 圭吾**・佐藤 淳**
村上 克洋**・伊藤 俊**・前田 知世
里舘 均・小鷹 紀子・池田 晴夫
工藤 進英

昭和大学横浜市北部病院 消化器センター
同 臨床検査科*
シスメックス中央研究所**

【背景】テロメラーゼ特異的ウイルス製剤を用いた循環癌細胞検出法は“生きている細胞”のみを選択的に検出する点が特徴である. 概要を供覧, 次世代技術に関しても言及する.

【方法】初発単発胃腺癌手術患者65名から, 手術前, 手術後1ヶ月・6ヶ月の計3回, 末梢血7.5mlを採血, テロメラーゼ特異的ウイルスを用いて循環癌細胞を検出した.

【結果】癌細胞検出個数5個以上の群が有意に予後不良であった. 癌細胞陰性例に再発を認めなかった. 病理学的因子の中で, 静脈侵襲のみが癌細胞数と有意な相関を示した. 癌細胞検出率・検出数ともに病期との相関を認めなかった.

【将来展望】現在, 目的に応じた種々の癌細胞検出技術を開発中である. 早期に応用可能な分野として, 超早期癌診断, 予後予測, 治療効果判定等が挙げられる. 癌浸潤・転移のメカニズム解明を目指し, 循環癌細胞のliving cell sortingと機能解析に取り組んでいる.

23 寸劇を取り入れた緩和ケア市民啓発法の評価

鈴木 聡・二瓶 幸栄・三科 武
大滝 雅博*

鶴岡市立荘内病院 外科
同 小児外科*

【目的】寸劇を取り入れた市民向け緩和ケア出張講演会の有用性を評価する.

【方法】鶴岡地域の市民を対象に, 庄内プロジェクト(OPTIM鶴岡)メンバーの出張による講演と寸劇を8ヵ所で行い, 講演会の前後と6ヵ月後(追跡)のアンケート調査を行った.

【結果】講演会前後, 追跡調査で比較的大きく変化した項目は, 「病名告知を望まない」, 「緩和ケアは末期の医療である」, 「麻薬を使うと中毒になる」, など. 一方, 変化の少ない項目は, 「最期は自宅で過ごしたい」など. 自由記述欄から, 寸劇は緩和ケアを理解する上で有用との評価が多かった.

【まとめ】出張講演会は, 緩和ケアや麻薬に関する知識の提供に効果があった. 一方, 追跡調査の結果では医療の安心感はあまり評価されなかった. 以上から, 継続した講演会の開催の重要性が示唆された.